

評価結果概要表

作成日 平成 21 年 1 月 9 日

【評価実施概要】

事業所番号	秋田県知事指定第 0570811349号
法人名	カブシキガイシャ 株式会社 サイトー商会
事業所名	グループホーム太田ふくし苑
所在地	大仙市太田町横沢字久保関北716-1 (電話) 0187-88-2337
評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉協議会
所在地	秋田市旭北栄町1-5
訪問調査日	平成20年12月2日

【情報提供票より】 (平成20年10月1日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 3 月 15 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	7 人 (常勤 6 人 非常勤 1 人 常勤換算 6 人)

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	2 階建ての ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	<input type="checkbox"/> 有(円) <input checked="" type="checkbox"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input type="checkbox"/> 有(円) <input checked="" type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	<input type="checkbox"/> 有 / <input type="checkbox"/> 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要

利用者人数	9 名	男性 4 名	女性 5 名
要介護 1	2 名	要介護 2	4 名
要介護 3	3 名	要介護 4	0 名
要介護 5	0 名	要支援 2	0 名
年齢	平均 76.9 歳	最低 60 歳	最高 87 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	仙北組合総合病院、大仙市立太田国保診療所、大仙市立太田歯科診療所
---------	----------------------------------

【外部評価で確認された事業所の特徴】

「地域と共にゆっくり、のんびり生きていこう」の理念を掲げ、「家庭的にのんびり」との方針で利用者の笑顔と一人ひとりのペースを大切に支援している。  
職員は利用者と一緒に花壇や畑づくりを行い、収穫の喜びを共有し、漬物づくりなどは人生の先輩として学びながら、互いに支え合う関係を築き上げており、職員の負担が大きい中で利用者の生活を第一に考えて日々頑張っている。  
また、利用者には繰り返し丁寧に話しかけ、時間をかけて利用者の思いを感じ取れるよう努め、気の合う利用者同士2~3名で外出するなど自由な暮らしを支援している。  
地域との関係づくりにも意欲的なことから、周辺の福祉施設や学校、企業等への理解を求め、地域全体で利用者の生活を支えられるよう前向きな取り組みに期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)	効率的な記録様式の見直しや緊急災害時のマニュアル作成など、前回結果からの課題に対して具体的な改善策を検討している。
	今回の自己評価に対する取組状況(関連項目:外部4)	管理者及び計画作成担当者が中心となって自己評価を行っているが、今後は職員一人ひとりが自己評価を行うホーム全体で取り組むことを期待したい。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組(関連項目:外部4, 5, 6)	運営推進会議にはホームの状況報告や緊急災害等の対応などの課題を検討し、夜間の避難訓練実施や対応マニュアル作成など具体的な取組に反映させており、協議事項を職員間でも共有している。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)	年1回の家族会や行事などのほか、玄関に意見箱を設置して意向の把握に努めている。 また、毎月のたよりで写真つきで利用者の様子を伝え、金銭管理状況なども報告して情報提供に努めている。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	小学校の学習発表会への招待や地域の文化祭などに利用者の作品を展示するなど地域の交流しているが、ホームの周辺に民家が少ない環境のため、企業や福祉施設、関係団体の理解を得られるよう積極的に働きかけ、利用者の見守りや緊急災害時の連携・協力体制の実現に向けて取り組むことが望まれる。
重点項目④		

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>								
<b>1. 理念と共有</b>								
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域と共にゆっくり のんびり生きていこう」の理念の下、運営している。			「地域と共にゆっくり、のんびり生きていこう」との理念を掲げ、「家庭的にのんびり」の方針に基づき、利用者の笑顔を引き出すよう心がけながら取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関に掲示し、常に目につくようにしている。「施設」よりも「家庭的にのんびり」という実践は日々心がけて取り組んでいる。			常に職員の目に入るよう理念を玄関に掲示し、毎月の全体会議やミーティング、申し送りなどで理念を確認し合いながら共有している。		
	3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域で行われる行事には積極的に参加(他施設の祭りや地域の秋祭りなど) また苑内で行う行事には、家族はもちろん近くの集落にも案内状を出して呼びかけている。					
<b>2. 地域との支えあい</b>								
	4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	買い物や医療等は地域の店を極力活用している。また、近くの公園を利用し花見や芋煮会行って、地域の方々とコミュニケーションを図れる機会を持っている。	○	地域で行われる美化活動などにも参加するように検討したい			
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の小学校で行われた「学習発表会」や地域交流センターでの「作品発表会」に参加(ちぎり絵)の作品を出展した。			小学校の学習発表会に招待されたり、町の文化祭に利用者の作品を展示するなど交流を図っている。また、ホームの敬老会に太田芸術文化協会踊りの会が訪問し、利用者及び家族の喜びにつながっている。	○	周辺には企業や福祉施設、学校等があり民家が離れており、近隣福祉施設等との交流が希薄なことから、学校やボランティアの体験学習などを受け入れ、子どもたちや地域住民に対してホームの理解と連携を深めるよう働きかけていくことを期待したい。
	6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現状においては困難です。	○	独居老人の安否確認や地域行事へ参加してもらうのは出来るのではと思います。			
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>								
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前年の評価をもとに、記録の書き方の改善、緊急対応における訓練(避難訓練、救急心肺蘇生法訓練)を実施しました。			前回評価結果に対しては改善課題を明確にし、効率的な改善策を検討している。また、自己評価は管理者及び計画作成担当者が中心となって取り組んでいる。	○	前回評価結果から記録様式を見直しているが、重複する部分もあり、さらなる簡素化が望まれる。また、管理者等を含め職員一人ひとりが自己評価を行い、全体的にサービスの質の向上に向けて取り組むことを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	芸文協のボランティアの方々(囲碁クラブ、唄と踊りグループ)受け入れや、入居者の作品出展など意見をいただいたことに対応している。			運営推進会議は2か月に1回開催し、ホームの状況報告や災害時などの対応について協議検討しており、マニュアル作成など具体的な改善につなげている。また、協議内容は職員にも報告し、課題等を共有しながらサービスの向上に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険事務所や地域包括支援センターや病院などからアドバイスをうけながら、情報提供をいただいて適切なサービスを行うように努力している。			行政担当者とは必要に応じて相談・助言を得ているが、地域包括支援センターとは役割等を認識しておらず、情報共有など連携が取れていない。	○	利用者に関することや施設との連携など多岐にわたって相談し、積極的に連携を図りながら、地域との交流を図りサービスの向上につなげていくことを期待したい。
	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	各種研修等に出席して理解している職員もいるが全員でない	○	職員ミーティングを利用し研修出席職員から研修報告してもらって理解し活用して行けるように話し合いたい。			
	11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	社会問題となった事例などを資料提示したりしているが、再度学ぶ機会が必要と思われる。	○	同上			
<b>4. 理念を実践するための体制</b>								
	12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に書面及び口頭で説明を行い、その都度理解し納得してもらっている。					
	13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が職員に意見、不満等話しやすい雰囲気作りを心がけている。					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回手紙を出し、苑での様子や写真、受診結果、お小遣い帳の明細などを送って報告している。また、利用者の状態に応じてその都度、家族に電話連絡で早急に対応している。			毎月のたよりで利用者の生活の様子を写真つきで伝え、小遣い帳や請求書、受信結果なども報告している。 また、行事時の家族会での意見交換のほか、手紙や電話でも速やかに連絡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関カウンターに「ご意見箱」を置いて利用者または利用者家族等からの意見、苦情聞くようにするとともに、家族会を開催して意見等を聴く機会を設けている。また、行事や面会の都度聴取する。			行事の際に家族会を開催して意見を集約しているほか、運営推進会議でも意向の把握に努め、玄関には意見箱を設置している。 また、家族が職員に直接相談することもあり、信頼関係を築いている。	○	家族は意見や要望を伝えるにくいことを前提とし、家族会や意見箱の有効活用により家族の潜在的な思いを把握するよう工夫してほしい。
	16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回スタッフミーティングや本社との定例打ち合わせ会を行い意見を反映させている。					
	17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	現状においては困難です。	○	人員不足の解消に努める			

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は最小限にしているが、代わる時は、利用者担当者は軽度の利用者になっている。			職員の離職が多く、勤務調整や救急対応が困難で、職員への負担が大きい。 そのため、職員が精神的に不安定になることもあるが、利用者への影響を考慮しながらケアにあっている。	○	職員の離職率が高いため、その要因を把握し、サービスの低下を防ぐためにも職員の健康管理及び就労環境の整備に努め、利用者の安心した生活を支援してほしい。
<b>5. 人材の育成と支援</b>								
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それに見合った研修がある場合、運営者(本社)より対象職員に対し出席要請される。			必要に応じて研修に参加しており、研修後は会議やミーティング等で職員間の伝達報告に努め、研修成果を共有している。	○	職員の経験や職種、希望等に応じて計画的に研修に参加できるように、職員の充足を図りながら研修計画を立てるなど、参加しやすい環境整備とともにサービスの質の向上に努めてほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区グループホーム協議会等の研修や他施設との相互訪問を通じて取り組んでいる。			管理者は圏域協議会等の研修会に参加し、意見交換しながら交流している。 また、法人内の他ホームと有料老人ホームと定期的に行事等で交流しているほか、地域の老人福祉施設とも夏祭りを通じて交流している。	○	地域の同業者と利用者同士の交流を図るとともに職員同士の交流も行い、情報交換や知識・技術の共有により地域全体のサービス向上につなげてほしい。
	21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	社員旅行や飲み会を設けている。					
	22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	毎月の本社との定例打ち合わせ会において要望、意見を取り入れるように努めている。					
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>								
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>								
	23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	自分から悩みや様々な訴えを出しやすい雰囲気作りに努めている。(毎日の声かけの中で、変わったことはないか、必要なものはないかなど、聞き出して対応)					
	24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面会、行事、お便り等を通じ、相談をする機会を設けている。					
	25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接のときに必要としている支援、心身の状態等を聞いて、理美容やその他のサービス利用など出来るだけ希望に応えるようにしている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	アセスメントによりサービスの濃淡を決めて開始し、2週間くらい経過した後スタッフ等と相談し、内容を変えながら対応している。			管理者や職員が自宅を訪問し、過去の生活状況など家族から情報を把握し、ホームでの生活に生かしている。 また、利用者及び家族が見学し、納得のうえ利用するよう関係づくりに努めている。	○	利用者及び家族の意向を確認し、事前に通いや宿泊での利用体験を行うなど、職員や他利用者との関係づくりによるスムーズな利用を支援してほしい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>								
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔の暮らしはどういったものだったのか、会話からいろいろ教えてもらったり、漬物や寒天などの作り方や畑作物の作付けの方法を学んだりしている。			職員は利用者と一緒に花壇や畑づくりを行い、収穫して喜び合い、漬物など人生の先輩として学び、支え合う関係を築いている。 また、利用者のできることや役割を尊重し、共に行う姿勢で利用者との時間を共有している。		
	28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面接の回数を増やしていきながらその時々良かったこと、困ったこと等を雑談の中から話し合っつぎの支援につなげている。					
	29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族会、行事やレクリエーションの機会をとらえてより良い関係を築けるようにして本人への支援につなげるように努めている。					
	30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の承諾を得た上で、利用者からの希望があれば馴染みの場所に行ったり、馴染みの人については面会などを通して積極的に会ってもらおうようにしている。					
	31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事やお茶の時間は入居者全員がホールにて行い、時折、席替えをしながら居心地の良い環境作りに努めている。					
	32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	納涼夏祭りや敬老会に便りや電話で招待している。					
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>								
<b>1. 一人ひとりの把握</b>								
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望により床屋は馴染みの店に連れて行ったり、入浴日でないが入れてあげたり、買い物や外食の希望にも可能な限り対応を図っている。			利用者及び家族から暮らしの情報を得て、様々な場面でできることを確認したり、言葉かけで確認するなど希望や意向等の把握に努めている。 また、何度も丁寧に声かけ、確認するなど時間をかけて利用者の思いを感じ取り、支援につなげている。		

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	経歴(職員全員がいつも目を通せるように毎日手にする台帳に挿んでいる)をたどり、趣味や昔の仕事などを把握し、現在どういことを求めているを理解し、希望に添えるように努めている。					
	35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	できれば全員そろって食事が望ましいが、眠気のある人、心身の状態があまり良くないときは無理せず時間をずらして食事提供をしている。					
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>								
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画担当者を中心に短期、長期目標を掲げそれに向け家族も含めサービス担当者会議を開き意見交換をして介護計画を作成している。			計画作成担当者を中心に家族の参加を得るなどして意向を確認し、サービス担当者会議で意見交換のうえ介護計画を作成している。 また、モニタリングを実施し、職員は6か月ローテーションの受け持ち体制で介護計画を確認している。	○	計画作成担当者は現場職員との連携を図り、全職員が利用者一人ひとりの介護計画を共有し、ケアの標準化を図り、サービスの質の向上に努めてほしい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護度の変更や心身の状態変化に応じて本人、家族と話し合い、現状に即した計画を作成している。			利用者の心身の状況変化に応じて常に家族と話し合い、その都度家族の意向を確認し、サービス担当者会議で変更作成している。		
	38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は、毎日「特変」以外のことでも記入し、その他にも申し送り事項としてその日の様子を簡潔に記載したものを共有して介護に活かしている。					
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>								
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	支援できるものについては、柔軟に対応をしている			地域の馴染みの店での買い物や床屋、通院など利用者及び家族の希望・要望を優先して支援している。 また、併設有料老人ホームとの行事や訓練、利用者同士の交流のほか、看護師による利用対応も充実している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>								
	40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関、医療機関等と協力しながら支援している	消防は消防署の指導を受け消防訓練や救急救命講習を行い、また地域消防団からは、避難訓練に協力してもらっている。文化面では、地区芸文協の協力で作品の展示や唄と踊りのボランティアをもらっている 医療は、年1回の健康診断を入居者の希望を取り入れて実施している。					
	41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	社協や他の居宅介護支援事業所からの紹介により当苑に入所していただいたり、当苑から他の事業所や県リハビリセンターに紹介したりしている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在までのところ、地域包括支援センターへ依頼したり要請されたりしたことはありません					
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	余程の長距離でなければ出来るだけ付き添うように支援している。			利用契約時に利用者及び家族の意向を確認し、希望に応じてかかりつけ医などへの通院を支援している。 また、看護師から薬の知識や便秘の対応など技術指導を受け、サービスの向上に努めている。		
	44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	仙北市立角館総合病院および仙北組合総合病院、大仙市立大曲病院の精神科と連携を取りながら治療を受けている。					
	45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	主に地域の医療機関を利用しているため地域の看護師と気軽に相談できている。また受診の際は当苑の看護師が付き添いして症状を詳しく把握してもらっている。					
	46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中はできるだけ多く面会するように心がけて不安を感じさせないように対応。医師、看護師とは、家族と共に蜜に相談をして情報を取るようにしている。相談については、医療相談室のソーシャルワーカーと連携を執っている。					
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人、家族の希望を尊重しながら対応している。			利用者及び家族の希望を尊重し、状況に応じながら緊急時の対応を心がけている。 また、管理者は終末期に対する近隣医療機関との連携・協力を希望している。	○	利用者の高齢化及び重度化に伴い、今後の方針を明確にするとともに、職員間で共有するためのマニュアル等の作成が求められる。 また、併せて重度化や終末期に対する医療機関との連携・協力を得られるよう体制整備に努めてほしい。
	48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	バイタルチェック、見守りの強化、細部に渡っての記録を取って申し送りをしている。職員全員が常に状態を把握できるように努めている。					
	49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、本人及び家族に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他施設へ移る場合、介護アセスメント等の情報提供をしてスムーズな住み替え出来るようにしている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>								
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>								
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>								
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録は利用者の目にふれにくい場所、申し送りの届く範囲で声は聞こえないような場所にて行っている。また、誇りを損ねるような職員の行動が見られた場合は、その都度注意している。			職員は笑顔を大切に、ソファに横になっている方には腰を下ろして視線を合わせて声をかけ、一人ひとりを尊重しながら支援している。また、記録など個人情報関係書類は事務室の書庫で管理している。	○	トイレのドアをカーテンに換えているが、利用者の尊厳及びプライバシーを確保するための工夫が望まれる。また、広報への写真掲載や文化祭等への写真展示など、利用者及び家族の同意を得るなどして個人情報保護に努めてほしい。
	51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を「尊厳の保持」に配慮して行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	「これをしよう」、「あれをやって」という命令調でなく「これをやってくれたらうれしいな」という選択肢で行っている。困難な場合は、現物を見せたり二者択一にする等の対応をする。					
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間や入浴の時間などは、全体の流れの一つになっており、なかなか個々に行くことは困難である。	○	どうしても眠い人は無理に起こさず様子を見て、後から食事を出している。又入浴は希望を聞いて「いま入浴できるけどどうする？」との声掛けを行っているし、入浴日が違っても希望があれば入浴してもらっている。	ホールでテレビをみる方やソファに横になる方、居室で過ごす方など様々で、食事や入浴なども一人ひとりの生活リズムに合わせて支援している。		
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>								
	53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	化粧や髪染めは、希望あれば職員も手伝いして行っている。訪問理髪にほとんどの人が満足されているが、馴染みの床屋に通っている人も数名いる。					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者からは皿拭きや盛り付け、片付けを手伝ってもらっている。それらが出来ない人でも、下膳、テーブル拭きやお茶くみという形で、なるべく一役やってもらうよう心がけている。			利用者の好みや食べたいものを調理師が検討のうえ調理しており、その方に合った食事内容を工夫しながら和やかに食事ができるよう支援している。また、利用者のペースに合わせて盛り付けや後片付け、テーブル拭きなどを職員と一緒にやっている。		
	55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	タバコを吸う人は現在いない、酒類は毎日出すことは難しい(身体状況への心配)ですが行事や盆、正月などでは、好きなものを出来るだけ添う形で提供している。おやつも何種かの中から選んでもらったり「選ぶ楽しみ」も感じてもらえるようにしている。					
	56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう「尊厳の保持」に配慮して支援している	排泄チェック表にてトイレ誘導の時間をだいたい把握し誘導に努めている。					



外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しむように支援している	曜日は決まっているが、入浴日以外でも希望があれば対応している。			週3回入浴を基本とし、希望があればいつでも対応できるよう心がけている。 また、入浴を拒む方には丁寧に声かけしながら促し、納得のうえで入浴やシャワー浴、清拭などで支援している。		
	58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	居室誘導やホール誘導はムリには行わずに軽い声掛けにて行い、ソファで寝たい人は、寝てもらったりと自由である。					
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>								
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	天候の良い日は、外で食事をしたり、近くの公園に出向いたり気分を変えての楽しみや皿洗い、洗濯物たたみ、モップがけなどの役割分担は決めたわけではないが自主的にやってくれている。(たまに声かけ)			利用者が状況に応じて畑での野菜づくりや花壇づくり、花の水やり、モップかけや漬物などの役割を持っている。 また、行事の際に少量のお酒を飲んだり、切り絵や習字などの趣味活動も楽しめるよう支援している。		
	60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる人には自主管理してもらっている。自主管理の困難な利用者には、買い物するときなど自分で払わせるようにしている。					
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩の希望があれば可能な限り対応している。また、受診の際も少し遠回りをして、花や紅葉がキレイな所を通ったりしながら会話を引き出すように心がけている。			馴染みの店への買い物や外食、気の合う利用者同士2～3人での外出など支援している。 また、車イスの方でも可能な限り外出しており、利用者の希望や外出回数を増やしたいと意欲的である。	○	ホームの行事時などは本社からの応援があるが、日常的に外出の機会を多くして利用者全員での外出を支援するためには職員の負担が大きいことから、利用者の生活を支える職員体制の充実など可能な範囲で取り組むことを期待したい。
	62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かける機会をつくり、支援している	全員ではないが、家族と出かける人もいる。個々にはムリであるが、2ヶ月に1回のペースで行事を設け外出を行うように心がけている。	○	月1回のペースで数名ずつでも連れて行ければもっと多くの希望をかなえることが可能。			
	63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望されるときは、自由に電話を提供している。					
	64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室にて訪問者が過しやすい配慮を心がけている。 居室にはイス、テーブルを置き、お茶、菓子の提供など					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>								
	65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止マニュアルを作り、職員が共通の認識で利用者のケアに努めている。					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	鍵を掛けない代わりにセンサーにて対応、またドアに鈴をつけるなどをして鍵は掛けないよう努めている。			玄関にはセンサーのチャイムがあり、日中は開放的で、利用者は散歩や花壇の水やりなどで自由に外出しており、必要に応じて職員が付き添いしている。 また、夜間は周辺が閑静になるため安全のため施錠している。	○	周辺に民家が少ないため、企業や福祉施設、関係団体などにも積極的に働きかけ、地域全体で利用者を見守る体制づくりに努めてほしい。 また、ホーム内の構造上、職員の死角となる場所があることを把握しているため、対処方法を工夫してほしい。
	67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	見守りや介助をしながら、安全に配慮している。					
	68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の目の届かない所に置くようにして、未然に危険を防ぐようにしている。					
	69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急対応マニュアルにより事故に迅速な対応を心掛けている。					
	70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行っている	救急救命講習は行っているが、年1回程度であるので実践不足である。	○	色々な実践の出来る機会をもっと設けて行きたい。			
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期消防訓練年2回行っており、夜間を想定した避難訓練を行っている。その際は、消防署員の指導の下、地域の消防団、地域住民の参加協力を得て行っている。			防災計画に基づき救急救命講習や消防訓練等を実施し、緊急災害時の対応を確認している。 また、消防署や地域消防団、地域住民の参加・協力を得て訓練を実施している。	○	夜間や火災、地震による断水などを想定した実践的な訓練を行い、住民及び職員の役割を明確にするなど、利用者の安全を確保するための取り組みが望まれる。
	72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入所の際や容態の変化が見られる場合、その都度家族に説明している。					
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>								
	73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	夜勤、日勤連携を密にし、容態に異変がある場合は2hおきのBTチェック、KTチェックを徹底するようにしている。看護師にもすぐ連絡が付くような体制になっている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬については、個人ファイルやお薬手帳で職員全員が把握している。服薬変更があった場合は、申し送りにて確認徹底しているが、副作用等にいたっては認識不足の職員もいる。	○	薬についてのメリット、デメリットを把握しておく必要がある			
	75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表にてトイレ誘導の時間を把握し誘導に努めているが、トイレ自立している利用者についての把握はなかなか困難である。	○	便秘気味の利用者に対しては、下剤でなく消化促進する食べ物を食べさせるよう、食べてもらうように努める。			
	76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアは、毎食後行っている。					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケア記録の中に食事摂取量と水分量を記入しており一人一人の状態を把握している。			利用者の嗜好状況に応じて献立を立て、お粥にするなど調理方法も工夫をしている。また、食事摂取量や水分量を把握し、詳細に記録している。	○	利用者の栄養バランスが適切かどうか、栄養士など専門的な視点から定期的に栄養点検をしてもらえるよう、近隣福祉施設等の連携・協力を得ながら利用者の健康管理に努めてほしい。
	78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染対応マニュアルをたて、感染予防に努めている。インフルエンザは毎年予防接種をしている。ノロウイルスについても、対応グッズを作って対応している。玄関には、アルコール消毒薬を置き、来客者にも協力してもらっている。					
	79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	入居者、職員とも手洗いの徹底、調理器具については、ハイターを活用している。					
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>								
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>								
	80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関まわりにプランターを置き、入居者に花を植えてもらっている。建物の西側に狭いスペースですが花や野菜を植え季節感を出している。					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所では、皿洗いの音が響くことを考え、流しにマットを置き対応、生ゴミは台所に置かず外の汚物倉庫に格納している。トイレも、消臭剤や消臭スプレーを活用して防臭対策をすると共に、玄関やホールには季節感あるものを装飾するなど工夫している。			共有空間には季節の草花や利用者の作品などを飾り、テーブルやソファを配置して自由に落ち着いて過ごせるよう環境づくりに努めている。		

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	建物のスペースの関係で困難であるが、気の合った利用者同士が話せる場つくりのためソファを置くなどして対応している。					
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際、なるべく今まで使用していたものを持ってきてもらえるように伝えている。			ベットや鏡台、棚などを設置し、入居時に利用者及び家族と相談のうえ馴染みのタンスやテレビなどを持ち込み、レイアウトも自由に決めている。 また、居室の入り口には自分の部屋が理解できるよう名前を大きく表示するなど工夫している。		
	84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝、ホール、トイレの換気を行う、居室は、寒い日は本人がいない時を見て換気している。温度調節は温度計や利用者の声にて対応している。冬期間は、加湿器を使い、極度な乾燥を防いでいる。					
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>								
	85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、ホール、トイレ、浴室には手摺を設置している。					
	86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	帰宅欲求の強い利用者には、ドライブや散歩で気を紛わせたり、トイレを失敗してしまった利用者には責めずに「自分(職員)が汚してしまったので洗わせてほしい」などの声掛けで対応している。					
	87	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物のすぐ横が花壇、畑になっているので、花を植えたり、野菜を収穫したりして楽しんでもらっている。					

※  は、重点項目。

項 目		自己評価	
		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V. サービスの成果に関する項目</b>			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**  
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

○ 食事の前に音楽を流し、嚥下体操を行っている。  
 ○ 入居者に調理の手伝いを協力してもらっている。